

2020年(令和2年)6月9日(火曜日)

市営地下鉄

ホーム柵整備進む

名古屋市は、市営地下鉄のホームにおける転落事故や列車との接触事故を防ぐため、可動式ホーム柵の設置を進めている。来年3月までに市営地下鉄全駅の約8割に当たる79駅を設置完了

名古屋市

させる予定だ。公明党名古屋市議団(金庭宜雄団長)はこのほど、名城・名港線で初めてホーム柵が設置された名古屋駅を訪れ、市担当者から設置事業の進捗を聞いた。



名城・名港線のホーム柵について説明を受ける  
党名古屋市議団(奥側)

国土交通省によると、2017年度の駅ホームから線路への転落件数は、列車と接触しなかったものが2863件、ホームから転落またはホーム上で列車などと接触したものが176件。要因は酒に酔っていたことが半分以上を占め、体調不良や携帯電話使用による不注意もある。ホーム柵があればこうした事故を防げる。国交省は自殺防止にも効果があるとしている。名古屋市では市営地下鉄の全99駅のうち、これまでに東山線(22駅)、桜通線(21駅)、上飯田線(2駅)、名城・名港線(3駅)で設置が完了。名城・名港線では、来年3月までに残り31

来年3月には全駅の8割

駅に設置し、ホームと列車の段差をなくす工事も22年度に始めるとしている。また、ホーム柵未設置の鶴舞線では、26年度までに庄内緑地公園駅から平針駅の間

の駅で設置する予定だ。この日、党市議団が視察した名城・名港線を走る列車は6両編成で各車両に扉が三つずつある。ホーム柵の扉は各駅36カ所ずつ付ける。柵は高さ1・3メートル、扉が開く幅は2・4メートル。市交通局の山口俊勝主幹によると、名城・名港線では昨年、16件の転落があった。これに対し、ホーム柵を付けた路線駅における転落件数はゼロだという。山口主幹は「ホーム柵で事故を防ぎ、市民の皆さまに安心して地下鉄を利用してもらいたい」と話していた。

転落防止に

絶大な効果

公明が提案

党市議団は、地下鉄の安全対策を一貫して推進してきた。田辺雄一市議は08年11月の定例会で、市営地下鉄でホーム柵があるのは上飯田線の2駅のみ(当時)だと指摘。ホーム柵は自殺防止効果やバリアフリー化促進につながる」と述べ、ホーム柵の全駅設置を要望した。沢田晃一市議は18年2月の定例会で、列車とホームの段差により、車いすやベビーカー利用者が不便を感じていると述べ、ホームのかさ上げなどを求めた。金庭団長は「地下鉄利用者の安全確保と利便性向上へ、今後も市議団一丸となり取り組みたい」と語った。